

金 容賢(キム ヨンヒョン)

韓国観光公社 大阪支社長

2010～2012年は「韓国訪問の年」です

昨年、日韓を往来した人の数は何と約460万人。ドラマや映画の影響だと思いがちですが、「韓流ブームだけではありません。たくさんの積み重ねの結果だと思います」と金支社長。「韓国訪問の年」が始まった今年、近くて近い国が本当に近くなった理由についてうかがいました。

日韓の意識を変えた「Together」

サッカー・ワールドカップの日本・カメルーン戦は、出張中の高松でお客様と一緒にテレビ観戦しました。みんなで熱くなって応援していると、2002年日韓共同開催大会のことが脳裏に浮かんできました。

共同開催が決定したのは96年6月。その年の忘年会で、私は弊公社の本部長から突然、「共同開催についてスピーチしてほしい」と要請されました。何の用意もしていなかったので戸惑いましたが、こんな言葉が自然に出てきたのです。「両国とも本当は独自開催したかったはず。それがこうなったのは神様から我々への『仲良くしなさい』との贈り物です」と。

この共同開催決定を契機に、両国の若者に変化が起きました。「98年フランス大会に一緒に行こう」(together)と互いに呼び掛け、予選では韓国人が日本を、日本人が韓国を応援したのです。これが起爆剤となり、両国間が本当に近くなりました。

昨年、訪韓した日本人は約305万人、訪日した韓国人は約159万人にも上ります。韓流ブームは確かに大きな影響力を放っていますが、それだけでは約460万人の往来に至りません。日韓国交正常化以来、step by stepの無数の積み重ねがあって、双方が互いの良さに気づいた結果だと思います。

大阪で伝統芸能のロングラン公演を

私が日本に赴任するのは今回で4回目です。ようやく日本の中心地である大阪へやってきました(笑)。食べ物おいしいし、まさに活気があるし、とても楽しいです。回転寿司は大阪が発祥の地だと聞きました。実に不思議で、面白い発想ですね。

歴史や文化も魅力的です。しかし以前、韓国のお客様を伝統芸能に案内しようと思ったら、歌舞伎も文楽も休演中でした。その時、「ソウルのように常設公演があったら」と思いました。

実は、韓国でも16年前は伝統芸能を常設公演しているところが多かったんです。最初にNANTA(「サムルリ」)のリズムをベースにした非言語劇がロングランに成功。文化公演による集客が



可能だと立証され、今では日々、たくさんの劇場で多彩な公演が行われています。

百済の都を再現した歴史文化団地が誕生

2010年から2012年は「韓国訪問の年」として、各地でイベントやキャンペーンを展開しています。その中で今年は特に忠清道(チュンチョンド)にスポットが当てられています。忠清道は今まであまり観光名所が整備されていませんでした。しかし9月には百済の都を再現した歴史文化団地ができ、世界大百済典(9月18日～10月17日)も催されます。百済と歴史的に深い縁のある奈良は、今年、平城遷都1300年。奈良と忠清道…東アジアが大きなスケールで繋がっていたことを実感します。

韓国の「気」「興」「情」とは

韓国人は「初対面の人にやたら笑顔を見せてはいけない」という儒教的なしつけを受けていますので、日本の方は「愛想がない」と思うかもしれません。でもそれは誤解。いったん話を始めたら、すぐに友達になれます。何より情が深いのです。

韓国の魅力は、「気」「興」「情」のエナジーにあるといわれています。気は自然の力。日本でもパワースポットが話題になっていますが、韓国には至る場所にあるのですよ。興はW杯で見たような情熱。情は、日本人には特に共感できる感性だと思います。

金 容賢(キム ヨンヒョン)氏

1954年韓国京畿道・楊平(ヤンピョン)出身。慶熙大学院(観光広報学)専攻。81年韓国観光公社入社。87年名古屋支社次長、91年東京支社課長、98年仙台支社支社長を勤めた後、2001年から07年までソウルの本社にて人事や観光教育、マーケティングなどの役職を歴任する。09年から大阪支社長に就任し、現在に至る。



韓国観光公社 <http://japanese.visitkorea.or.kr>